

かわさきしがいこくじんしみんだいひょうしゃかいぎ
川崎市外国人市民代表者会議
(だい 15 期 だい 1 年 だい 1 かい だい 1 にち)
ぎじろく
議事録

1 日時 2024 (令和6) 年 4 月 21 日 (日) 午後 2 時～5 時

2 場所 川崎市役所本庁舎

3 出席者

(1) 代表者 26 人

アディダヤ ヨザ、イトウ ユリカ キヤレン、ウイ スー ケット、鎌田
ファチマ、ギーゼツケ フロリアン、金 寿瑛、単 望舒、鄭 載勳、
スリニヴァサン スチエタ、スン チン グアン、セネ アイサトウ チンボ、
ダオ テイ ハーイ ハン、張 遙、朴 慧珍、ヒラノ ジョイミ、
ヒリストバ ガブリエラ、ブー ホン アン、プストフスキーフ アナスタシア、
古谷 史子、ボカレル ナラヤン、ボソ ミゲル アンヘル、ボラニス
ピョートル、楊 子宜、ラハマン ジアウル、李 詞、ルイス ジェームス

(2) 事務局

山崎 部長、菅原 課長、吉留 担当課長、三田村 課長補佐、松長根 課長
補佐、緒方 職員、高橋 専門調査員

4 傍聴者 2 人

5 会議次第 (公開)

(1) 開会

(2) 事務局説明

(3) 委嘱式

(4) 集合写真撮影

(5) 配布資料の確認

(6) 事務局の紹介

(7) 代表者の自己紹介

(8) 正副委員長の選出

(9) 年間日程について

(1 0) 視察について

(1 1) 事務連絡

(1 2) 閉会

【開会】

(開会し、事務局から今日の日程について説明)

【委嘱式】

(委嘱状の交付)

【福田市長のあいさつ】

福田市長「みなさま、今日は大変お忙しい中、この委嘱式にお集まりいただき、大変ありがとうございます。熱意の伝わる申請書を書いていただき、素晴らしい26名の方に代表者になっていただいた。ちょうど先週の金曜日に第14期の提言を受けとったところだが、これまでにいただいた提言は150を超える。私たちはみなさんからの提言を非常に大切にしており、約86%と多くのことが実現できている。それは、これまでの外国人市民代表者会議のみなさんが熱心に議論していただいて、実情にあわせたかたちでしっかりと提言していただいた結果が着実に実を結んでいるのだと考えている。川崎市民の人口も伸びており、ついこのあいだの発表で155万人、そのうちの約5万人が外国籍の方で145の国・地域から川崎市に住んでいただいているということは、いろいろな意味での豊かさの指標だと思っている。何より大事なものは、それぞれ1人ひとりがこの川崎に住んでよかったなと、自分の国も大事だけれど、この川崎が第二のふるさとになったなと思っただけ、そういうことが大事だと思っっている。昔から住んでいる方もいれば、今日から新たに市民になる方もいる。すべての方々が川崎に暮らしてよかったと思えるようなまちにしていきたいので、ぜひ、みなさんの衆知を集めた議論をお願いしたい。川崎の歴史を勉強されている方も多いと思うが、100年前に川崎市ができたときは人口約5万人だった。私は秋に高齢者の施設を回って長寿を祝いに行くのだが、川崎生まれの方っていらっしゃいますかと聞くとほぼ今はいらっしゃらない。みなさん川崎市外、県外、あるいは、場合によっては国外からというかたちで、

いろいろな人たちが集まってきて、この川崎を発展させてきた。この多様性こそ、これからも私たちの川崎市の可能性だと強く信じていますし、これからの100年も、この100年培ってきた多様性をこれからも川崎の発展の礎にしたいと思っている。まさにみなさん1人ひとりがその主体となるので、ぜひ、どこの国・地域がバックグラウンドということではなく、いろいろな人たちが集まっているということが何よりもこの川崎の価値だと思っているので、ぜひ、みなさんには熱心なご議論をいただきたい。今回、100周年を迎えるにあたって、あらためて川崎を知って、関わって、好きになるという、そういうプロセスを踏んでももらいたいなと思っている。この外国人市民代表者会議のキーワードでもある「要求から参加へ」というかたちで、参加することによって、このまちの一員となり、好きになっていくという、そういうプロセスを経ていただきたいなと思っている。5万人を超える外国人市民のみなさんの代表者であることを意識していただき、その責任感も含めて2年間どうぞよろしくお願いいたします。」

(集合写真の撮影)

(配布資料の確認)

【事務局の紹介】

(事務局山崎部長から事務局の紹介)

【代表者の自己紹介】

アディダヤ委員「インドネシア出身だ。話したいことは2つある。1つ目は川崎市内の外国人の労働者の問題、たとえば特定技能や技能実習生についてだ。2つ目は防災についてだ。」

イトウ委員「前期からの継続だ。今回、私が話したいことは防災についてだ。実際に現場に行ってみて、知られていなかったりすることや表示が曖昧だったりということを経験したので、そうしたことをみなさんと一緒に話したい。」

ウイ委員「マレーシアから来た。話したいことは2つある。1つ目は、パンフレットなどで表現が間違っていることがあるので、それが改善できればと思う。2つ目は、子どもが3人いるのだが高等教育の部分について話したい。」

鎌田委員「ブラジル出身だ。会議では外国人高齢者について話し合い、問題解決に貢献したい。」

ギーゼック委員「ドイツから来た。話したいことは、調べればいろいろな情報は出てくるが、あまり調べない人に対して、どうすれば情報を届けることができるようになるのか考えたい。」

金委員「私が話したいことは、異なるルーツへの理解を深める機会を、メディアなどを使って発信するようなことと、災害大国の日本に暮らしているのでやはり私も災害対策について話し合いたい。」

単委員「中国から来た。私は主に医療支援、避難訓練と教育についてみなさんと議論したい。ほかの提案があれば、川崎市のよりよい環境づくりのために全力でサポートしたい。」

鄭委員「韓国から来た。私が話したいことは、人生に何か変化があった時に提出しなければいけない書類など、そういった情報を発信して、もっと外国人が住みやすい環境をつくりたい。」

スリニヴァサン委員「私は13期の代表者会議に参加していたので、その経験を活かしてがんばりたい。話したいことはいろいろあるが、みなさんと積極的に意見交換して、地域に貢献していきたい。」

スン委員「シンガポールから来た。会議で話したいのは、日本はシンガポールと同じく少子高齢化なので、子育てしやすい環境についてだ。」

セネ委員「セネガル出身だ。代表者として話したいことは2つある。1つ目は、地震が多いということで防災についてだ。2つ目は、防犯に関してで、外国人が日本に住んでいてあまり意識しないと思うが、加害者と被害者を生まないために私たちができることをみなさんと一緒に議論したい。」

ダオ委員「ベトナムから来た。会議で話したいことは2つある。1つ目は、今、介護の仕事をしているので介護の制度のことについてだ。2つ目は、教育、子育てのことについて話したい。」

張委員「中国から来た。会議の中で話したいことは、まちづくりだ。外国人も住みやすい、外国人に優しいまちづくりについて考えていきたい。」

朴委員「川崎市は外国人が多く住んでいて、外国人が多いということはもっと多様な考えができるというふうに思っている。日本人が、外国人がたくさんいても怖いと思わないように、日本人と外国人が触れあう機会を増やしていけたらなと思う。それと、外国人も日本人のように住みやすいまちだと思えるように、

必要な支援と制度をつくっていくことに貢献したい。」

ヒラノ委員「代表者として話したいことは2つある。1つ目は、外国人が働きやすい環境の整備についてだ。2つ目は、重要な情報を外国人に広める方法について話したい。」

ヒリストバ委員「ブルガリア出身だ。個人的には、以前からプラスチックゴミの削減について、プライベートでも取り組んだりしていて興味をもっている。それ以外のテーマでも、みんなで話し合って、勉強してよい提言を一緒につくっていききたい。」

ブー委員「ベトナム出身だ。会議で話したいことは、子どもの問題と医療の問題についてだ。言葉の問題で医療がうまく受けられないということをよく聞くので、それについて話したい。」

ブストフスキー委員「話したいことは2つある。1つは、医療支援について、まだ目が行き届いていないところがあれば、それについて話したい。もう1つは、小学校や幼稚園に通っている外国人の保護者が交流できる場や機会についてだ。」

古谷委員「青少年の教育や医療、あとはインターネットのことなどについて話したい。みなさんと協力して、何かかたちとして残せるものを1つか2つできるとよい。」

ボカレル委員「ネパールから来た。まったく日本語ができない外国人が生活の中で困っていることを改善できればと思う。母国語で質問して日本語で回答が出るような仕組みがChatGPTならすぐにできるのではないかなと思う。」

ボソ委員「ポリビア出身だ。医療と教育に関してが、一番大切なのかなと思う。あとは地域活動だ。川崎市が国籍に関係なく住みやすいまちになるように、私たちにも協力できることがあると思っている。」

ボラニスキ委員「ポーランドから来た。先日の説明会では住居に関して話したいと思っていたが、年次報告書を読んで防災の方が大事なテーマではないかなと思っている。」

楊委員「台湾から来た。会議で話したいテーマは、子育て世代のファミリー、とくに外国にルーツをもつファミリーにとってより住みやすいまちへの取組についてだ。それと、日本人のファミリーとより多く交流できるような取組についても話したい。」

ラハマン委員「会議では子どもの保育について話したい。それと、川崎に住んでいる

外国人がもう少し日本語の勉強ができるようになるための取組についても話したい。」

李委員「中国出身だ。会議では、私のように仕事をはじめてから日本に来た人の視点で提言をしたい。」

ルイス委員「出身はイギリスだが、イギリスとスペインのハーフだ。この会議があるだけでも、とても感謝している。」

【正副委員長の選出】

事務局菅原課長「これから委員長と副委員長選出をしていただく。委員長と副委員長が選出されるまでのあいだ、山崎部長が仮の議長として進行させていただくということでよいか。（異議なし）」

山崎部長「委員長、副委員長が選出されるまでのあいだ、進行役を務めさせていただく。まずは、委員長と副委員長の役割などについて事務局から説明をお願いします。」

（事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明）

山崎部長「何か質問はあるか。」

ボソ委員「正副委員長・部会長会議に関してだが、何時くらいからを予定しているか。」

事務局高橋専門調査員「委員長、副委員長、部会長との調整で決めるが、2時間前後かかるので午後6時か遅くても7時には始めたい。もっと早い時間のスタートでも構わない。」

ルイス委員「委員長、副委員長の任期は1年か。それともローテーションで変えたりすることはできるか。」

事務局高橋専門調査員「条例などで決まっているわけではないが、基本的には2年間固定でお願いしたい。」

金委員「正副委員長・部会長会議は、川崎市国際交流センターで開催されるのか。」

事務局高橋専門調査員「正副委員長・部会長会議の場所に関しては、市役所で行っている。」

ボカレル委員「日程はどれくらい前に決まるか。」

事務局高橋専門調査員「日程については、会議が終わったあとに相談をして決めることが多い。大体2週間前くらいだ。」

アディダヤ委員「正副委員長の役割として、何か具体的なスキルは必要か。」

事務局高橋専門調査員「とくにこういったスキルがないとできないということはない。

何か確認したいことはあるか。」

アディダヤ委員「たとえば、みなさんのアイデアをまとめるコーディネーションのスキルが必要か、まったくできなくてもなれるのか。」

事務局高橋専門調査員「事前の打ち合わせもするし、事務局がサポートするので、委員長や副委員長がすべてコーディネートしたりする必要はない。」

ウイ委員「2つ質問がある。1つ目は、急に体調が悪くなった場合、欠席は認められるか。2つ目は、対面の必要はあるか。オンラインでもよいか。」

事務局高橋専門調査員「1つ目に、急に体調が悪くなることもあると思うので、その場合の欠席は仕方ないと思う。2つ目に、打ち合わせは資料を見ながらかなり細かくするので、これまでの経験上オンラインだと厳しい。基本的には対面でお願いしたい。」

セネ委員「市議会での報告についてだが、事前に打ち合わせはあるか。」

事務局高橋専門調査員「市長への報告も市議会の参考人招致も、資料を事前に送ったうえで、当日に打ち合わせをしている。」

山崎部長「ほかにあるか。（なし）それでは、続いて委員長・副委員長の選出方法について、事務局から説明をお願いする。」

（事務局高橋専門調査員が資料2に基づき説明）

山崎部長「何か質問はあるか。」

セネ委員「投票は、秘密か。」

事務局高橋専門調査員「名前は書かない。誰が誰に入れたかはわからないようにする。」

スン委員「候補者が1人の場合は挙手なので、秘密ではないのではないですか。」

事務局高橋専門調査員「今の案では候補者が1人の時には挙手なので、たしかに秘密ではない。もし、提案があればみなさんで決めていただければと思う。投票用紙は用意してあるので、投票で決めてもよい。」

金委員「投票する人を決めるために、投票の前に何かスピーチみたいなものはあるか。」

事務局高橋専門調査員「1分程度で簡単なスピーチをしていただく。」

山崎部長「ほかに何かあるか。（なし）それでは、先ほど質問のあった候補者が1人の場合の決め方について、手を挙げる、または投票以外の提案はあるか。」

ウイ委員「挙手だが、候補者は席を外す。」

金委員「全員顔を伏せる。」

ギーゼツク委員「聞く順番は投票からにした方がよいのではないか。」

山崎部長「それでは、4つの選択肢で決をとる。1つ目の投票に賛成の人は手を挙げてください。（12人）2つ目の当初の案のままの挙手に賛成の人は手を挙げてください。（8人）3つ目の候補者が席を外して挙手に賛成の人は手を挙げてください。（3人）4つ目の顔を伏せて挙手に賛成の人は手を挙げてください。（3人）過半数にならなかったなので、上位2つで決選投票をする。まず、投票に賛成の人は手を挙げてください。（19人）次に、当初の案のままの挙手に賛成の人は手を挙げてください。（7人）それでは、候補者が1人の場合も投票で決めることにする。副委員長長の選出方法について、案では委員長と同じとなっているが、候補者が1人の場合は投票ということによいか。（異議なし）それでは、委員長と副委員長長の選出方法が決まったので、選出に入る。まずは、委員長に立候補したい人は手を挙げてください。（挙手）次に、推薦したい人は手を挙げてください。（挙手）」

立候補 — イトウ委員

スリニヴァサン委員

セネ委員

推薦 — プストフスキー委員（→辞退）

ボソ委員（→承諾）

山崎部長「それでは、順番に1分程度でスピーチをお願いする。」

イトウ委員「14期から続けてこの代表者会議のメンバーに選んでいただいた。前期では部会長を務めていた。直前まで悩んでいたが立候補した理由は2つある。1つ目は、前期の経験を活かして、提言をまとめていくサポートをしたい。2つ目は、一期一会という言葉があるが、このメンバーで提言をつくりあげるときに委員長を務めたいと思ったことだ。最後に、私の思う委員長とはあくまでもみなさんと一緒に2年後のゴールを迎えられるよう、ある時は長い道のりの先頭に立って旗を振ったり、ある時はみなさんの後ろから背中を押したりする、そのような役割だと思っている。」

スリニヴァサン委員「13期にも参加していたが、きっと変わっていることもあるだろうし、市制100周年ということもあり、みなさんと積極的に意見交換していきたい。私がやりたいことは3つある。1つ目は、多文化共生社会の実現に向けて取組を推進したい。2つ目は、日本人を含めて生活支援をすること。3つ目は、地域社会への貢献だ。地域参加したいという外国人市民は結構いるので、そうした取組を推進したい。投票してもらえたら、責任をもって役割をはたしたい。信頼を得られるよう努力する。」

セネ委員「私は初めての参加で、経験者もいるが迷いは一切なかった。私は川崎市のことが好きで、好きという気持ちは誰にも負けないと思っている。委員長という役割は、日本語能力の高さや、川崎市に長く住んでいるといったことではなく、みなさん1人ひとりの気持ちや声を拾って、まとめて、責任をもっていろいろなところで報告をすることだと思っている。」

ボソ委員「委員長になったら、明るい発言しやすい環境をつくりたい。委員長の役割というのは、まとめ役だけではなく、みなさんの意見や発言を引き出すということが一番大切かなと思っている。私がすべてやるということとはできない。みなさんの力がなければ、多分かたちにはならない。もし、選ばれたら以前の経験を活かして、みなさんの声がかたちになるように協力したい。」

<投票（1回目）>

イトウ委員（→5票）

スリニヴァサン委員（→7票）

セネ委員（→8票）

ボソ委員（→6票）

<投票（2回目）>

スリニヴァサン委員（→9票）

セネ委員（→17票）

山崎部長「投票の結果、委員長はセネ委員に決まった。続いて、副委員長の選出をする。まずは、副委員長に立候補したい人は手を挙げてください。（挙手）次に、推薦したい人は手を挙げてください。（挙手）」

立候補 — スリニヴァサン委員

推薦 — イトウ委員（→辞退）

きむい いん (→ じたい)
金委員 (→ 辞退)

ひりす と ば い いん (→ じたい)
ヒリストバ委員 (→ 辞退)

ぼ そ い いん (→ しょうだく)
ボソ委員 (→ 承諾)

< とうひょう
投票 >

す り に ヴ ァ サ ン い いん (→ 1 5 ひょう)
スリニヴァサン委員 (→ 15 票)

ぼ そ い いん (→ 1 1 ひょう)
ボソ委員 (→ 11 票)

やまざき ぶ ちょう 「それでは、い いん ちょう と ふく い いん ちょう が せん しゅつ されたので、それぞれあいさつをねが
山崎部長「それでは、委員長と副委員長が選出されたので、それぞれあいさつをお願い
いする。」

せ ね い いん ちょう 「選んでいただきありがとうございます。はじ め て と い う こ と で わ か ら な い
セネ委員長「選んでいただきありがとうございます。初めてということではわからない
ことも多 おお い し、まだみなさんと はな じ か ん と 話 す 時 間 も な か っ た が、これからどうぞよろし
くお願いします。先ほど せ つ め い 説明したように、みなさん こく せ き や ね ん れ い、性 別 な ど い ろ
くをお願いします。先ほど説明したように、みなさん国籍や年齢、性別などいろ
いろと ち が わ た し ち が 違 う が、私たちに きょう づ う 共通しているのはこの かわ さ き し に す
いと違うが、私たちに共通しているのはこの川崎市に住んでいるというこ
となので、それを わす れ る こ と な く、できることを いっ し ょ う けん め い 一生懸命やれば、きっとよい
ことがあると思うので2年間よろしくねが
お願いいたします。」

す り に ヴ ァ サ ン ふく い いん ちょう 「みなさん、とうひょう
スリニヴァサン副委員長「みなさん、投票いただきありがとうございます。このかいぎ
をもっと こう か て き す す 効果的に進めていけるよう、い いん ちょう の さ ぽ ー と を し て い き た い。よろ
しくねが
お願いいたします。」

やまざき ぶ ちょう 「それでは、こ こ で い いん ちょう、ふく い いん ちょう と じ む き ゃ く う であ
山崎部長「それでは、ここで委員長、副委員長と事務局で打ち合わせをねが
10 ぶん 間の休憩とする。再開後の進行はい いん ちょう、ふく い いん ちょう の ふ た り ねが
10 分間の休憩とする。再開後の進行は委員長、副委員長の2人をお願いす
る。」

(きゅうけい)
(休憩)

せ ね い いん ちょう 「それでは、かいぎ を さいかい 再開する。まずは、ねん かん に つ い て さんぎ
セネ委員長「それでは、会議を再開する。まずは、年間日程について審議する。
じ む き ゃ く から せ つ め い 事務局から説明をねが
お願いします。」

(じ む き ゃ く た か は し せん もん ちょう さい いん し り ゃ う 3 もと せ つ め い)
(事務局高橋専門調査員が資料3に基づき説明)

せ ね い いん ちょう 「な に し つ もん 何か質問はあるか。(な し) では、な に い けん 何か意見はあるか。(な
セネ委員長「何か質問はあるか。(なし) では、何か意見はあるか。(な
し) それでは、に つ い て あ ん に つ い て 日程案について、さん せい ひ と て 賛成の人は手をあ
賛成) 2 0 2 4 ねん ど 年度のかいぎ に つ い て 日程が、あ ん の と お り に けっ て い 決定した。毎回のかいぎ に
出席できるように、よ て い あ 予定を空けておいてください。次に、つぎ 審議スケジュールに
ついてだ。じ む き ゃ く から せ つ め い 事務局から説明をねが
お願いします。」

(じ む き ゃ く た か は し せん もん ちょう さい いん し り ゃ う 4 もと せ つ め い)
(事務局高橋専門調査員が資料4に基づき説明)

せ ね い いん ちょう 「な に し つ もん 何か質問はあるか。」

鄭委員「部会は会議ごとに変更したりできるのか。決まった部会にのみ参加するかどうか。」

事務局高橋専門調査員「提言が決まるまで議論を重ねていく必要があるので、部会は固定でやっている。ただし、部会で話し合ったことは全体会で共有し、その際に質問や意見もできる。」

金委員「グループディスカッションのテーマとメンバーはどうやって決めるのか。自己紹介で関心の近い人たちでグループを組むのか。国籍・地域、性別、新規・継続などのバランスを考慮して組んだメンバーでテーマを決めるのか。」

事務局高橋専門調査員「グループディスカッションに関しては、国籍・地域、性別、新規・継続などのバランスを考慮して組んだメンバーでやるのがよいと考えている。まずは、いろいろな関心や考えの人がいるということをお互いに知って欲しい。」

セネ委員長「ほかに何かあるか。（なし）それでは、2つのことについて、順番に決めたい。まず、次の会議では案のとおりグループディスカッションをすることに賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）次に、グループをどうするかについては、案のとおり事務局が案をつくり、正副委員長が確認、承認するということに賛成の人は手を挙げてください。（全員賛成）それでは、次回はグループディスカッションをするということに決定した。事務局はグループ案の作成をお願いします。今日の議事は以上だ。事務局から事務連絡をお願いします。」

【事務連絡】

- ・ 次回の開催場所について
- ・ メールの確認について

セネ委員長「それでは、閉会でよい。これで2024年度第1回第1日の川崎市外国人市民代表者会議を終わりにする。」